

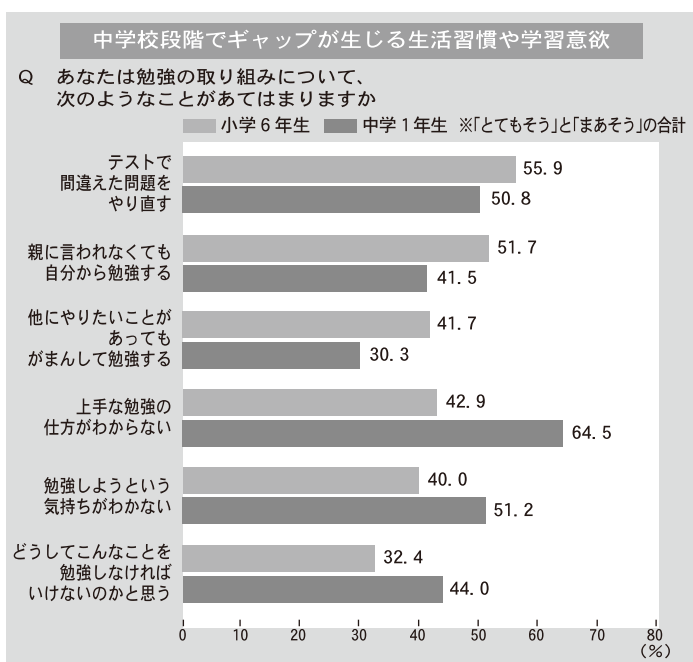
小6と中1の段差を緩やかに

～中学校入学直前春休みガイダンスの開催～



心豊かでたくましい児童生徒を育て小中一貫教育をめざして
シリーズ えでゆれば vol. ③

真剣に聞く児童たち



出典／第2回子ども生活実態基本調査
調査時期◎2009年8～10月
調査対象◎小学6年生 1,207人 中学1年生 1,321人

図1

小中一貫教育は、文字どおり小学校6年・中学校3年を一貫して教育することですが、特に大きな段差である中学校進学を前にした春休みの3月29日、小学6年生（約100名）を対象としたガイダンスを行いました。

調査結果から見えるもの
小6と中1の段差がよくわかる調査結果があります。1つ目は子ども生活実態基本調査（図1）で、2つ目は放課後の生活時間調査（図2）です。前者では、学習習慣や学習意欲の低下がわかります。後者では、睡眠時間の大幅な減少など生活リズムの変化がわかります。この2つの変化（ギャップ）を緩やかにするために、2つの講

調査結果から見えるもの

学習習慣の形成に関する講話
現役東大生（4月から大学院進学）で教育系ベンチャー企業の代表を務める清水章弘さんは「正しい中学生の勉強法」と題し、中学校での勉強や授業の受け方について助言しました。

図2 就寝・起床の平均時刻と睡眠の平均時間

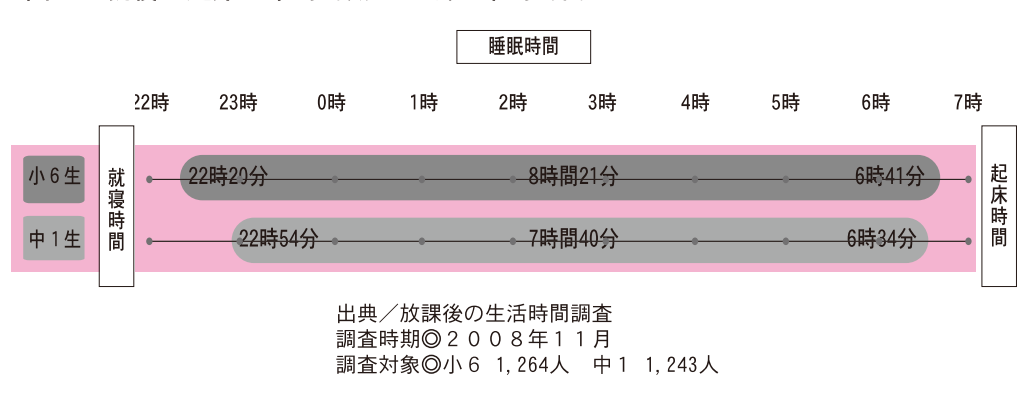
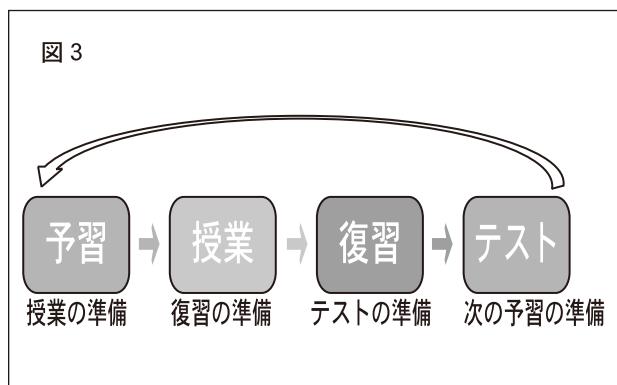


図3



勉強の定義は「出来ない」を「出来る」にすること。すでに出来ることだけが続けるのは勉強ではない。勉強には、予習・授業・復習・テストの4つの段階があつて、それぞれ次の段階の準備と考えば、効率的に勉強できる。（図3）この中で1番大事なのは授業。先生の話をしっかり聞く・ノートの取り方を変えるだけで、成績は飛躍的に上がる。一人ひとりで学ぶのではなく、みんなで学びあえる環境が整っているのが理想的な学校。「みんなで協力して集中して勉強しよう」を合い言葉に、問題を出し合ったり、ノートを見せ合ったりして、お互いに高め合ってください。と激励しました。

基本的な生活習慣の確立に関する講話
教育委員会事務局の馬場主幹は、文部科学省出向中に担当した「早寝早起朝ごはん」国民運動の成果や課題をふまえて「より良い中学校生活を送るためのポイント」と題し、「早寝早起朝ごはん」に代表される基本的な生活習慣について助言しました。
文部科学省の調査によると、毎日朝ごはんを食べる児童生徒ほど学力・体力ともに高い傾向にある。しかし、朝ごはんを食べたことで急激に学力・体力が向上するのではなく、睡眠・食事・勉強・運動のリズムとバランスが重要。物事に優先順位をつけて、今何をすべきか考えて判断して欲しい。特に中学1年生は睡眠時間が急激に減少するので、自分に必要な睡眠時間を見極めて、確保するようにし



現役東大生の清水さん

てください。と指導しました。

二つの講話に、共通するのは、タイムマネジメント（時間管理）能力とセルフマネジメント（自己管理）能力を身につけてもらいたいということではないでしょうか。子ども達は新しい生活に思いを馳せ、真剣に聞き入り、熱心にメモをとっていました。

図書紹介

町立図書館には、清水さんの著書『習慣を変えると頭がよくなる』東大生が教える7つの学習習慣』(高陵社書店、2009)を備え付けています。

お知らせ

教育委員会では、より良い小中一貫教育を進めていくため、みなさまからのご意見・ご要望をお待ちしております。住所・氏名・連絡先を明記のうえ、郵送またはFAXによりお送りください。お送りいただいた内容をもとに、各種会議で検討して参りたいと思っております。よろしくお願いたします。

三戸町教育委員会事務局
〒030-1198 三戸町大字在府小路
町43番地
FAX .. 20-11114